

「うめき 2 私たち うめき 3 御霊」

～狭間に生きるキリスト者の望～

ローマ 8 : 23 ~ 27

鉄と言えばどんな見た目をイメージするでしょうか。鉄は自然界で酸化して、錆びた状態で存在しています。私達が認識している鉄は人が使うために、不純物を取り除き、製錬して原子を整列させた状態。鉄が錆びていくのは本来の姿に戻ろうとしているのです。地球上のすべてのものは自らの形を保とうとして生きています。それでは私達はどうか。私達は自分にとってプラスかマイナスかで物事を判断してしまいます。人間が浅はかな知恵で、自分の都合のいい管理をするようになり、多くのものが壊れました。しかし、その結果、人の生き方は豊かに満たされた人生から、貧しさばかりを感じる人生となってしまいました。

■ 被造物の願い

被造物は神様によって素晴らしく作られ、その姿を保とうとします。人間は自らの勝手な意思で生きようと願い、本来の姿とは異なる生き方をしています。神様の子どもであることを知り、それに気づいた時、元の姿に戻ろうとします。そして、神様の目線と私達の目線が違うことを知ります。神様は私達の一生を良いもので満たされる方です。神様の計画に従って歩もうと決断する限り、良いもので満たしてくださるという約束が大前提にあります。私達は今しか見えないけれど、神様は私達の人生の全てをご存知で、一時の解決ではなく、人生の全てを通して最善である解決を備え、私達の人生に素晴らしい計画を用意してくださっています。

■ すでに得ている

「御霊の初穂をいただいている」(ローマ 8 : 23) 初穂とは何でしょうか。実のならないイチジクの例え(ルカ 13 : 6 ~ 9)でイエス様は初生りの実がならない木を切り倒すように言われました。初穂とはその年の最初の収穫であり、本生りの実がなる証、次に続く収穫を保証するものです。そしてその印は御霊であるとあります。「神はまた、確認の印を私たちに押し、保証として、御霊を私たちの心に与えてくださいました」(Ⅱコリ 1 : 22)「私たちがこのことにかなる者としてくださった方は神です。神は、その保証として御霊を下さいました」(Ⅱコリ 5 : 5) 御霊の保証は終末的です。私達が初めの恵みを忘れなければ、必ず本生りの実がなることを諦めることはありません。

■ うめきの原因

それでは、なぜ初穂をいただいているのにうめいているのでしょうか。それは「すでに得ている」と「いまだ得ていない」の間における葛藤なのです。御霊の初穂は、すでに得ているが、いまだ完成していない。肉体的弱さ、道徳的弱さなど原因はあるでしょう。けれど、救いの完成を求めているからうめいているのです。完成に望みを抱く私達はこの世の価値観や、今だけを見て悩み苦しむ必要はありません。料理人になるための下働きの間、苦しい修行に耐えることができるのは、料理人となった将来の姿に希望を持つことができるから。現状に問題や不足があるのは、狭間なのであって、行いが悪いのでも、愛

されていないからでもありません。「私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう」(ローマ 8 : 24) 救いを得た私達は、救いの完成へ希望を持っているのです。苦しみがあるからといって希望を失うわけがありません。「もしまだ見えないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます」(ローマ 8 : 25) 訓練の途中、磨がれている途中、すべてのうめきは希望を待ち望んで、期待して時を過ごしているのです。

■ 御霊のうめき

私たちは弱いのです。肉体的、道徳的においても、理解力においても、神様の計画を知ること、耐えることも、できません。「今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔を合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります」(コリ 13 : 12) 今苦しみがあることで希望を失うことなどありません。神様はすべてを知っておられるので、取り繕うことも、立派にふるまうことも必要ありません。どう祈っていいかわからない時にでも、救いの初穂としていただいている御霊が私達の代わりに祈り、とりなしてくれています。「同じようにして」とは、私たちと同じように、御霊も言いようもない、言葉に表せない、深いうめきによって私たちのための執りなして祈ってくださっているということ。どんな時でも神様は私達の心を探り極めて、祈れない私達の代わりに、御霊によって完全な祈りを聞いてくださっています。私たちの祈りは、不十分です。それでも御霊が私たちの祈りの欠点を修正し、不足を補ってください、御霊のうめきとなります。御霊のとりなしは父なる神の御心に従っています。祈りは神秘です。

■ 最後に

望みを持ちましょう。今していることが小さなことであっても、望みを描き、信じましょう。「あなたはどうなりたいか」その問いに素直に答えるものになりたいです。神様はその願いを豊かに引き上げ、神様の計画の中で私達が素晴らしい人生を生きることを願っておられます。「今の時のいろいろの苦しみは、将来私達に啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。」(ローマ 8 : 18) 信じて、望みを持ちましょう。

(要約者: 藤原 友規子)

(2019年8月4日)